

クラックカットシール

【製品概要】

舗装のひび割れ注入工法

県
活
用
方
針

従来品より機能が優る「やまぐち発新製品」

【優れた機能が発揮できる工事現場】

- ひび割れ注入工による補修を必要とするひび割れ箇所
- ひび割れ以外の補修（轍ぼれ、ポットホール等）がなく、
オーバーレイや打換え等を行う予定がない箇所
- 工事に伴う、交通規制の影響が大きい箇所

山口県発注工事では、上記の条件に該当する箇所において当製品を指定して発注しています。（上記以外の箇所についても、活用可能としています。）



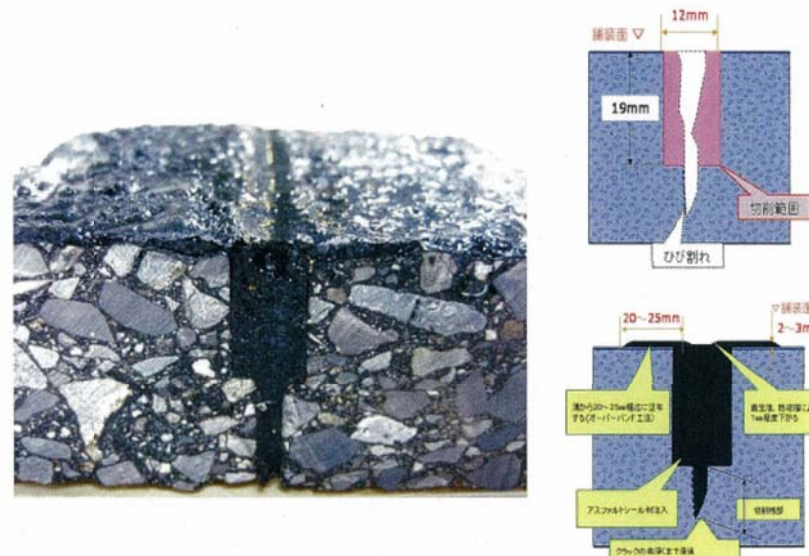
クラックカットの状況



注入の状況
（ポリフレックス#1）

【製造者】株式会社共栄興産

舗装の長寿命化を目指す新技術の提案



クラックカットシール工法とは、適切な時に適切な道路に適切な処理を行う予防保全工法です。道路下部構造に回復不可能なダメージが及ぶ前に処理を行い、舗装の延命化を図ります。クラックに沿って舗装をカットすることにより、ひび割れ深部までシール材が浸透します。また、シール材の接着面が新しくなり接着面積も増え、より高い効果を期待出来ます。シール材は従来品に比べ軟化点が低く引張り量も多いことからひび割れに対する追従性が大きいことが確認されています。本工法の追跡調査では、従来工法と比べその優位性が認められ、国土交通省で想定されている予防的修理工法の耐久年数を十分に満足する工法であることが確認されています。